

## 10月23日（月）その86 感謝！感謝！感謝！感謝！

パソコンに向かっている今の時刻は 21 日（土）の午前 5 時である。20 日（金）の夕方東京から帰ってきて、心地よい疲れのためビール 1 本で睡魔が襲ってきて 9 時には寝たので睡眠は十分だ。休日なのでもっと眠ろうと横になっていたが、「月曜日の講話は、これを話せ！」と、言葉たちがあふれ出てきて寝かしてくれない。感謝！感謝！感謝！感謝！と、私の脳内で快楽物質のドーパミンが出まくっているような感じだ。

感謝！その① 大成功の「杉田洋先生の教育講演会」（16 日）

いくつかの小学校が「校内研修」に位置づけ全職員で参加してくれたし、300 人以上の参加があった。感涙の講話であった。これでもかと子ども達のビデオが出てきて、そのたびに感動で涙が溢れた。「来年も杉田先生の講話を！」「島尻中（じゅう）の全先生方に聞いて欲しい！」という声が圧倒的だった。来年は、中学校の職員がもっと参加できるよう講演会の在り方を工夫したい。

感謝！その② 全日中校長会主催の「中学校教育 70 年記念式典」参加

5,000 人定員の「東京国際フォーラム」の会場で、皇太子殿下のお言葉、参議院議長のあいさつ等があり、その中で感謝状をいただいた。全国の中学校長等が集結し会場は満員、大きな刺激を受けた。夜は県内から参加の 35 人の校長先生方と懇親会があった。あいさつをする機会を与えられたので、ちゃっかりと「所長講話」も PR しておいた。（笑）

東京国際フォーラムの地下には「相田みつを記念館」があり、数年ぶりに訪れて、刺激をもらった。また上野の東京国立博物館で、特別展「運慶」を見た。展示された 70 体のほとんどの仏像が、「国宝及び重要文化財」の指定を受けている。まるで生きているかのようなすごい作品群を直に観ることができ、大変感動した。（参照：その 61 運慶とミケランジェロに見えたもの）

感謝！その③ 閲覧者が 2,000 人を超えた HP の「所長講話」

誰が読んでいるのか、私の側からはわからない。6 月に HP にアップして以来、毎週「100 人ちょい」で閲覧者数が増加してきた。そのうちの多くはリピーターだろうから、毎週 100 人程度の方が、「自分の意思で自己研鑽のため」にアクセスして下さっている。大変ありがたい。私は GPS 衛星のように発信をするだけで、受信側がそれぞれの感度で「刺激」を受けていると思う。例えば私の「100」の発信に対して、それぞれが刺激を受けて、自身の「思索」「類推」「発展」などの自己教育力で研鑽し「200」も「300」も受け取る方もいるだろう。読んで下さる皆さんの意欲がさらに高まって、それぞれの目の前の子ども達のために頑張ってくれることを期待している。

感謝！その④ この 10 年で私の講話を約 5 万人が視聴

先日必要があって計算してみた。（注：いずれも延べ人数）中学生に語りかけた「校長講話」が 68 回で 33,000 人。義務課長時代の「課長講話」が 265 回で 9,000 人、冊子の配布と電子ファイルのネット送信で 1,000 人。60～90 分程度のスライドを使った講話が約 40 回で 5,000 人。そして島尻教育研究所の「所長講話が」85 回で 850 人、さらにネット視聴者が 2,000 人。合計ざっと 5 万人だ。明日 24 日（火）、粟国小中で 5 万 30 人目となる「職員の方への講話」を予定しているが……（笑）。

台風の影響で、粟国行きフェリーが欠航しないよう、お祈りしておこう。

## 10月26日（木）その87 電流戦争－2人の天才・エジソンとテスラー

過ぎた日曜日に録画しておいた BS ドキュメンタリー「電流戦争！エジソン VS テスラ」を観た。2015 年アメリカのテレビ局が制作したトーマス・エジソンとニコラ・テスラの電力普及の先陣争いを描いたもので、大変興味深く観させてもらった。

蓄音機や電球の発明などで 1,000 件の特許を取得していたトーマス・エジソンは、大きな研究所を持ち、独創的な発明家としてアメリカに君臨していた。当時普及していた「ガス灯」に代わるものとして、彼は直流式の発電所を作る事業に着手していた。しかし直流式では半径 500m の範囲にしか送電できないという欠点があった。

発明王のトーマス・エジソンは、「I have not failed I've just found 10,000 ways that won't work.」（私は、失敗なんかしちゃいない。うまくいかない方法を 1 万通り見つけただけだ。）と言っている。ドキュメンタリーでも失敗に負けず根気強く、粘り強く、何度でも試すよう部下にも指示をしていた。

若き天才ニコラ・テスラ（セルビア人）がエジソンの会社に入ってきた。彼は「交流方式」の電力発電所を考えついていた。交流式だと遠くまで送電できる反面、高圧のため大変危険であるという欠点があった。ニコラ・テスラはエジソンと対立し、一年余でエジソンの会社を退職した。その後独立し、スポンサーを得て電力事業に参入してきた。彼は変電器で電圧を下げ、交流の危険性を回避できるようになっていた。こうしてエジソンとテスラによる「電流戦争」が始まった。

最終バトルはナイアガラの滝で行われた。当時アメリカでは、ナイアガラの滝を利用した発電事業計画が持ち上がっていた。電気事業は創生期で、一から全てを作り上げる必要があった。「発電所」、「送電」、「家庭のコンセント」、「活用できる製品の数」等々である。だから「交流」か「直流」のどちらが採用されるのかは、双方にとって莫大な富を賭けた「生きるか死ぬか」の闘いだったのである。

結論からいうと勝ったのはニコラ・テスラの「交流方式」である。アメリカを象徴する発明家トーマス・エジソンにとって、その敗北は耐えがたいものであっただろう。またニコラ・テスラも、いろいろな理由で交流発電所の特許使用料を諦め、莫大な富を手にはすることはなかった。だがニコラ・テスラの描いた壮大な夢は、アメリカだけではなく人類全体の繁栄の礎となった。

ドキュメンタリー番組は、2人の天才のバトルに焦点を当てていたが、私は2人の天才の「電力にける努力」にも思いを馳せた。まさにドリカムの「何度でも」の世界である。「♪ 10000 回だめでへとへとになっても 10001 回目は何か変わるかも知れない ♪ ♪」

世界で初めて ips 細胞をつくった山中伸弥さん（京都大学）も「1回成功するためには、9回失敗しないとたどりつけない。野球は3割打てば大打者だが、研究は1割打てばすごい研究成果だ。『失敗は、成功のもと』であり、失敗は、成功につながるものである。」と言っていた。

さて皆さんも、エジソンやテスラを見習って、研究論文の作成を頑張ろう！何度でも何度でも……10,000 回だめでへとへとになっても……（笑）

## 10月26日（木）その88 真剣勝負－王貞治－

昨日栗国島から帰ってきました。先週の台風 21 号に引き続き、22 号が接近し午後から海が荒れるということで、時間を繰り上げての出港だった。私的にはとてもラッキーな日程だった。栗国小中の職員も慰労会で「感動した、刺激を受けた。」と言ってくれて、私も目的を達成できたような気がした。

さて、今日はプロ野球のドラフト会議があります。注目の清宮選手をソフトバンクの王貞治会長も一位獲得への思いを公言しました。阪神、ヤクルトもすでに宣言していて楽天、日ハムも一位指名をするようである。「清宮の獲得フィーバー」は、今夜のスポーツニュースのトップ報道だろう。

東風平中の校長の時、「真剣勝負」というタイトルの校長講話をやったことがある。スポーツの話題は生徒達が食いついてくるので、その時々活躍したいろいろな分野の選手を紹介して、「彼らの言動から学ぶべきこと」を中学生に教えてきた。「真剣勝負」では、王貞治を取り上げた。「一流達の金言」（致知出版社）、「野球にときめいて－王貞治半生を語る－」（中央公論新社）と2つの本から、生徒達に王貞治という人を紹介した。

### 一球一球が命がけの真剣勝負

僕の現役時代には、一球一球が文字どおりの真剣勝負で、絶対にミスは許されない、と思いながら打席に立っていました。よく「人間だからミスはするもんだよ」と言う人がいますが、初めからそう思ってやる人は、必ずミスをするんです。基本的にプロというのは、ミスをしてはいけませんよ。プロは自分のことを、人間だなんて思っちゃいけないんです。100回やっても1,000回やっても絶対俺はちゃんとできる、という強い気持ちを持って臨んで、初めてプロと言えるんです。でも相手もこちらを討ち取ろうとしているわけですから、最終的に悪い結果が出ることはあります。やる前からそれを受け入れちゃダメだということですね。

真剣で斬り合いの勝負をしていた昔の武士が「時にはミスもある」なんて思っていたら、自らの命に関わってしまう。だから、彼らは、絶対にそういう思いは持っていなかったはず。時代は違えど、命がけの勝負をしているかどうかですよ。  
「一流達の金言」より

王貞治は元巨人軍の選手で、868本のホームランの日本記録を持ち（メジャー記録はハンク・アーロンの755本）を打ち、巨人のV9を長嶋茂雄と共に支えた国民的スターである。彼が756本のホームランを打った1977年、国民栄誉賞が創設され、初の国民栄誉賞が王貞治に与えられた。

一本足打法（フラミンゴ）と呼ばれる独特の打法でホームランを量産し年間50本以上が3回、40本以上が11回もある。その記録を支えるのは、「真剣勝負への執念」と「愚直な練習熱心さ」、「きまじめな人間性」なのである。

王貞治は、全部で13個の日本記録を持っている。「天才とは1%の天賦の才能と99%の努力である。」という言葉があるが、王はまさに天才であった。

王さんは「プロ野球に関わってもう50年以上が過ぎました。僕はユニフォームの選手達の輪の中にと不思議な「ときめき」を感じるのです。これを求め続けて自分は生きてきたような気がします。」と語っています。

あなたは、子ども達に囲まれて、「ときめき」を感じますか？